

スペースシャワー列伝15周年記念公演 第128巻 ～魂響(たまゆら)の宴～

My Hair is Bad / 最終少女ひかさ / THE BOYS&GIRLS / カネコアヤノ

株式会社スペースシャワーネットワーク(本社:東京都港区 代表取締役社長:清水英明)が運営する日本最大の音楽専門チャンネルスペースシャワーTVは、ライブイベント「スペースシャワー列伝15周年記念公演 第128巻 ～魂響(たまゆら)の宴～」を11月18日(水)に、新宿LOFTにて開催いたしました。

初冬の列伝開催決定！スペシャ列伝ホームの新宿LOFTにて、魂に響く胸熱バンドが集結！
My Hair is Bad / 最終少女ひかさ / THE BOYS&GIRLS / カネコアヤノ (Bar stage act)

つきましてはライブレポート、セットリスト、およびライブ写真素材をお送りいたしますので、是非貴媒体で取上げていただけたら幸いです。ご検討の程、何卒宜しくお願い致します。

Photo by 窪田 亮



《イベント概要》スペースシャワー列伝15周年記念公演 第128巻 ～魂響(たまゆら)の宴～

【日時】2015年11月18日(水) @ 新宿LOFT

【出演】My Hair is Bad / 最終少女ひかさ / THE BOYS&GIRLS / カネコアヤノ (Bar stage act)

【URL】<http://www.spaceshowertv.com/retsuden>

【Twitter】@retsuden_sstv 【主催・企画・制作】スペースシャワーTV

ライブの模様をスペースシャワーTVにてオンエア！

【初回放送】2015年12月17日(木)24:00～25:00 ※リピート放送有

◆スペースシャワー列伝15周年記念公演 第128巻 ～魂響(たまゆら)の宴～-オフィシャルライブレポート-

冷たい雨が東京を濡らした11月18日。「スペースシャワー列伝15周年記念公演 第128巻～魂響(たまゆら)の宴～」が新宿LOFTで行われた。出演はTHE BOYS&GIRLS、最終少女ひかさ、My Hair is Bad、カネコアヤノ。いずれも次世代のロックシーンを担っていくであろう4組が各々の想いを激しくぶつけ合う、とてもエモーショナルな一夜となった。

札幌在住の4人組バンドTHE BOYS&GIRLSのアグレッシブなパフォーマンスからライブはスタート。ワタナベシンゴ (Vo) がエレキギター1本で歌い出した「パレードは続く」では、徐々にバンドサウンドが加わると早くも会場にシンガロングを巻き起こす。「24」ではケントボーイズ (G) が奏でるスリリングなフレーズに、ワタナベが熱い想いを前のめりに捲き立てていく。上半身裸で大口を開けながらドラムを叩くカネコトモヤ (Dr) の存在感も高い。MCでは1年前のスペシャル列伝 第105巻ではBar Stageに出演したことを振り返ったワタナベ。当時は嬉しいと同時に悔しい気持ちもあったと語ると、退屈な日常を素晴らしい日々へと塗り替えるロックナンバー「すべてはここから」で、今度こそメインステージに立てた喜びを「うれしい!!」と爆発させた。「バンド辞めなくて良かった!」。そう叫んだラストソング「ライク・ア・ローリング・ソング」で、ワタナベはフロアに降りると、お客さんに紛れながら最後まで熱い歌声を届けた。

2組目も北海道札幌から来た5人組バンド、最終少女ひかさ。「俺たちに何が出来る? 救ってやるよ! 助けてやるよ!」と、但野正和 (Vo) が言い放つ不敵なロックンロールが、新宿ロフトに集まったお客さんの目を釘づけにする。細身の革ジャンを着こなす但野のアンダーグラウンドな佇まいは、たとえばドレスコースの志磨遼平を彷彿とさせるもの。紅一点のラモネス (Key) が奏でる印象的なシンセを絡めた爆音のロックンロールが鳴り響いた「かつき」を皮切りに、「関係者でてこい」では、ユニゾン弾く山田駿旗 (G) と小野寺宏太 (B) のふたりが背中合わせでプレイ。終始、挑発的な口調でフロアを煽る但野だが、「ハローアゲイン」では、「あなたが悲しくないように祈ってるよ」と、両手を合わせた。そして、「ピカピカ」でドラマチックな演奏にのせて、フロアに降りた但野は柵の上に立ち、笑顔でピースサイン。最後はアイドルたちの名前が続々と登場する問題作「いぎありわっしょい」で、フロアを盛大に踊らせると、「愛してるよー!」と投げキッスをして、但野はスタッフに肩車をされたまま会場を去っていった。

メインステージの転換中には、Bar Stageでシンガーソングライターのカネコアヤノが、アコースティックギターの弾き語りライブを繰り広げた。「座って休む感じでもいいので、楽しんでってください」。そう言うと、お客さんはフロアに腰を下ろしてゆったりと聴くムードに。好きな人に《君の苗字をくださいな》と歌う「マジックペンと君の名前」など、ユニークな視点で綴られたナチュラルな楽曲を、15分ずつ2ステージにわけて披露。恥じらいとピュアな冒険心が溢れたラブソング「キスをしよう」では、ときに儂げに、ときに芯の強さを覗かせながら歌を紡いでいく。MCでは「手が震えています(笑)」と緊張も見せたが、ギター1本で鮮やかに想いを描く繊細な表現力は圧巻だった。来年は初のワンマンが決定しているということで、「あの窓にさようなら(新曲)」など新曲も披露して、熱いバンドマンたちの競演のなかでしっかりと爪痕を残した。

トリを飾ったのは新潟からの3ピース、My Hair is Badだった。1曲目の「真赤」から、椎木知仁 (Vo・G) のハスキーな歌声で繰り出すただ漏れの感情が、聴き手の心を強く揺さぶる。山田淳 (Dr) が高い位置で激しく叩くハイハットもスリリングだ。続く「悪い癖」は、彼女との間で交わされる会話までも歌詞に落とし込んでいく生々しさ。そして「アフターアワー」や「クリサンセマム」といったスピーディかつ骨太のロックナンバーを立て続けに披露すると、椎木はマイクを通さずにフロアへと語りかけた。「いまの若者は夢を語らない。いまの若者には自主性がない。いまの若者です。死んでもゆとり世代です! 何が悪い!? 若者舐めるなよ!」と反骨精神を剥き出しにギターを掻き鳴らし、ひたすらメロディもなく、想いだけを言葉にのせて叫び続ける。そのまま、いまを大切に生きることを強く鼓舞する「フロムナウオン」へ。「聞かえてる! ?」とフロアに身を乗り出して、何度も問いかける椎木は、まさに死力を尽くすパフォーマンスだった。そして、アンコール。軽やかなポップソング「ドラマみたいだ」まで終わると、イベントのトリに相応しい気迫で臨んだMy Hair is Badに会場からは大きな拍手が送られた。

この日の出演者たちは、誰もが熱い言葉を持っていた。伝えたいことが多すぎるバンドたちだった。その想いはもっと広い場所で、大勢の人に向かって届けべきだ。1年後、2年後、彼らがそういう場所で見せてくれる光景もきっと最高に熱いものになるだろう。

このライブの様子はスペースシャワーTVで12/17(木) 24:00~25:00にオンエア。バックステージの様子も交えてお届けする。

(Text by 秦 理絵)

◆SET LIST
THE BOYS&GIRLS

- <1>パレードは続く <2>24 <3>さらば、あなたを生きた今日 <4>ロマンチックな夜の闇 <5>すべてはここから <6>ライク・ア・ローリング・ソング

カネコアヤノ

- 1st Stage <1>マジックペンと君の名前 <2>恋文 <3>週明け
- 2nd Stage <1>キスをしよう <2>あの窓にさようなら(新曲) <3>はっぴいえんどを聴かせておくれよ(仮)

最終少女ひかさ

- <1>かつき <2>関係者でてこい <3>ハローアゲイン <4>媚を売れ <5>ピカピカ <6>いぎありわっしょい

My Hair is Bad

- <1>真赤 <2>愛ゆえに <3>悪い癖 <4>アフターアワー <5>クリサンセマム <6>元彼氏として <7>フロムナウオン <8>優しさの行方 <En.>ドラマみたいだ

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社スペースシャワーネットワーク マーケティング部
TEL:03-3585-3544 FAX:03-3585-3215 <http://www.spaceshowertv.com/>
担当:宮田 維人 080-6860-3800 miyata@spaceshower.net